

第40回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミⅡ
チーム名	重大ブラザーズ
タイトル	大経済学者に学ぶ現代経済の理解
テーマ群	f) 歴史・思想
メンバー	◎重松 龍太 大神 直之
研究計画内容	<p>今回の私たちの発表では、2008年秋のリーマンショックとその後の深刻な世界的経済不況に代表される近年の世界経済の流れを説明するとともに、そこにおける問題の原因と克服策を考える上で、J. M. ケインズ（1883-1946）とJ. A. シュンペーター（1883-1950）という、20世紀を代表する2人の大経済学者の見解が現在の停滞している世界経済に有益な情報を与えるということに着眼してインゼミでの発表としたい。ケインズは1929年のニューヨーク市場の株価暴落に始まる世界大恐慌の背景とそれからの脱却のための理論・学説を展開した。もちろん、当時の経済状況と現在のそれとはまったく同じとは言えないが、実体経済と大きく離れて膨張した金融システムの不安定性が経済破綻を引き起こしたと考え、危機克服のために政府の積極的な経済介入が必要であると主張したケインズの見解は、近年の経済問題に対してもあてはまるであろう有効な示唆を与えると思われる。これに対してシュンペーターは、より長期的な視野に立って、資本主義経済の発展と変動を、企業者による革新（イノベーション）というものをその原動力と見なしている。今必要なのは、現在の先の見えない経済問題に対して適切な解決策を見出すことだけでなく、現在の経済状況を大きな歴史的流れの一環として捉え、より良い未来をもたらす経済社会の在り方を考えていくことであると思う。その点で、ケインズ的な視点とシュンペーター的な視点を適切に調和させていくことが大切であると、今回の発表を通じて考えていき、そして皆さんにも考えてほしいと思う。</p>